

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2009-7735

(P2009-7735A)

(43) 公開日 平成21年1月15日(2009.1.15)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 1 D 19/00 (2006.01)	A 4 1 D 19/00	3 B 0 3 3
A 4 1 D 19/01 (2006.01)	A 4 1 D 19/01	

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願2008-231766 (P2008-231766)	(71) 出願人	595081356
(22) 出願日	平成20年9月10日 (2008. 9. 10)		木村産業株式会社
	基礎とした実用新案登録		香川県東かがわ市松崎34番地
	実用新案登録第3116713号	(74) 代理人	100075731
原出願日	平成17年9月14日 (2005. 9. 14)		弁理士 大浜 博
		(72) 発明者	木村 勇
			香川県東かがわ市松崎34番地
		Fターム(参考)	3B033 AA16 AA26 AB03

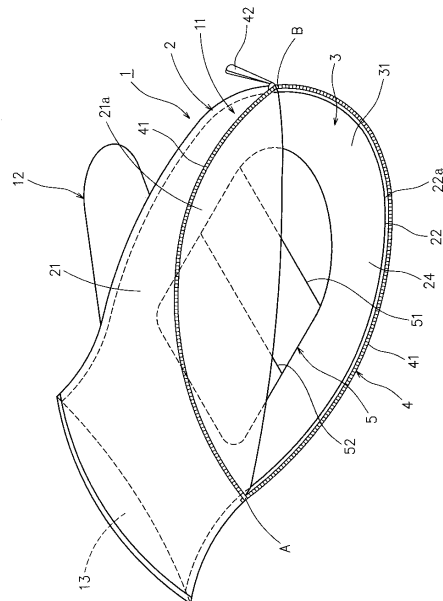
(54) 【発明の名称】 ミトン手袋

(57) 【要約】

【課題】 ミトン手袋に使い捨てカイロを装着するのに、従来では良好な状態で装着できない。

【解決手段】 外袋2と内袋3からなる二重袋を有したミトン手袋において、外袋2と内袋3との間に扁平状の使い捨てカイロ5を収容し得るカイロ収容部を設けている一方、外袋2に、使い捨てカイロ5をカイロ収容部内に出し入れするための開口部24と、該開口部24を開閉する開閉手段4とを設けていることにより、ミトン手袋に対して使い捨てカイロ5を良好な状態で収容できるとともに使い捨てカイロの出し入れが簡単に行えるようにした。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

外袋（２）と内袋（３）からなる二重袋を有したミトン手袋であって、
前記外袋（２）と前記内袋（３）との間に扁平状の使い捨てカイロ（５）を収容し得るカイロ収容部を設けている一方、
前記外袋（２）に、前記使い捨てカイロ（５）を前記カイロ収容部内に出し入れするための開口部（２４，２５）と、該開口部（２４，２５）を開閉する開閉手段（４）とを設けている、
ことを特徴とするミトン手袋。

【請求項 2】

請求項 1 において、開閉手段（４）としてジッパー（４１）又は面ファスナー（４７）を使用していることを特徴とするミトン手袋。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 において、使い捨てカイロ（５）を本体袋部（１１）における指部と手のひら部に跨がる位置に配置し得るようにしていることを特徴とするミトン手袋。

【請求項 4】

請求項 1 から 3 のいずれか 1 項において、使い捨てカイロ（５）を手袋の甲側と掌側の両方に同時に収容し得るようにしていることを特徴とするミトン手袋。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本願発明は、屋外で防寒用に使用するミトン手袋に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

この種の防寒用のミトン手袋は、寒い日の屋外作業時、通勤・通学時（特に自転車乗車時）、冬期のスポーツ（スキーやスノーボード等）時又はその観戦時、オートバイ乗車時、登山時、アウトドアやレジャー時、冬のゴルフ時（コース移動時や観戦時）、等に使用されている。

【0003】

他方、近年、身体を局部的に暖めることができる使い捨てカイロが普及しており、冬期の屋外において使い捨てカイロを身体の任意の場所にあてがって暖をとっている。尚、使い捨てカイロは、空気と接触して発熱する発熱組成物を扁平状袋内に収納したものであり、使用時に 10 時間程度に亘って発熱が継続するものが多い。

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

ところで、防寒用のミトン手袋は、上記のように寒い日の屋外において色々な用途に使用されているが、厳寒期の屋外では、厚手の手袋を装着していても十分な防寒ができないことがあり、特に指部分が暖まりにくい。

【0005】

他方、上記のように簡易に暖をとれる使い捨てカイロが普及しており、この使い捨てカイロを手袋内部（手が差し込まれる部分）に収納して手の暖房を行うことが考えられる。ところが、手袋内部に使い捨てカイロを収納する（手袋内面に貼着する）と、そのカイロ入り手袋を手装着したときに、使い捨てカイロが直接手に接触するため、低温やけどの懸念が生じるとともに装着感が極めて悪くなり、使用に耐え得るものではない。尚、使い捨てカイロを手袋の外面に貼付けた場合には、使い捨てカイロの発熱が外気中に逃げるので、暖房用として機能しない。

【0006】

そこで、本願発明は、ミトン手袋において、使い捨てカイロを良好な状態で且つ簡単に出し入れし得るようにすることを目的としてなされたものである。

10

20

30

40

50

【課題を解決するための手段】

【0007】

本願発明は、上記課題を解決するための手段として、次の構成を有している。尚、本願発明は、防寒用として使用されるミトン手袋を対象にしている。

【0008】

そして、本願発明のミトン手袋は、外袋と内袋からなる二重袋を有し、外袋と内袋との間に扁平状の使い捨てカイロを収容し得るカイロ収容部を設けている一方、外袋に使い捨てカイロをカイロ収容部内に出し入れするための開口部と、該開口部を簡単に開閉することができる開閉手段とを設けて構成されている（本願請求項1に相当する）。

【0009】

このミトン手袋に使用される使い捨てカイロの大きさ（サイズ）は、特に限定するものではないが135×100mm乃至95×70mm程度のものが適当である。この使い捨てカイロには、片面に多数の針孔を形成した通気部を有しており（通気性のある不織布を使用したものもある）、他面に剥離紙付きの粘着剤を塗布している。又、本願発明のミトン手袋に使用する使い捨てカイロとして、その長径方向を上下2段又は3段に分包したものを使用できる。尚、この種の使い捨てカイロは、使用前には通気性のない収納袋内に収納されており（発熱しない）、一旦使用後でも通気性のない収納袋内に収納することで、不要な発熱を抑えることができるようになっている。

【0010】

本願発明のミトン手袋には、手のひら部分と人差し指から小指までの4指をまとめて被覆する本体袋部（指別れしていない）と、親指のみを被覆する親指袋部とが設けられている。このミトン手袋は、外袋と内袋の二重構造を有しているが、内袋には肌触りのよい生地（例えば布生地）が使用される一方、外袋には一般に比較的耐久性のある生地が使用される。又、外袋として、通気性に乏しい生地（例えば天然皮革、合成皮革、その他の通気性の悪い生地）を用いた場合には、外袋と内袋間に収容される使い捨てカイロの収容位置に対応する外袋部分に、多数の小孔（通気部）を形成しておく。

【0011】

本願発明のミトン手袋では、外袋と内袋の間に扁平状の使い捨てカイロを出し入れ自在に収容し得るようになっているが、該使い捨てカイロを収容する部分は、主として手袋の甲側部分である。尚、このミトン手袋を装着した状態で物品を握る必要がない場合には、使い捨てカイロを手袋の掌側（外袋平側材と内袋平側材間）のみに収容したり、あるいは該使い捨てカイロを手袋の両側（外袋甲側材と内袋甲側材間、及び外袋平側材と内袋平側材間）に同時に収容することができる（本願請求項4に相当する）。

【0012】

外袋に設けたカイロ出し入れ用の開口部は、少なくとも手袋甲側の外袋と内袋間に使い捨てカイロを出し入れし得る大きさを有しているが、その開口部の形態としては、外袋における甲側材と平側材の小指側境界部分にかなりの長さ範囲に亘って切り目を入れたものや、外袋の甲側材に使い捨てカイロを出し入れし得る大面積の切欠窓を設けたもの等が採用できる。尚、この開口部は、使い捨てカイロを本体袋部における指部と手のひら部に跨がる位置に配置し得るよう形成するとよい（本願請求項3に相当する）。

【0013】

又、上記開口部を開閉する開閉手段としては、開口部が上記切り目の場合は該切り目をジッパーで開閉可能としてもものを採用でき、開口部が上記切欠窓の場合は該切欠窓を被覆する蓋片（一辺が外袋表面に縫着されている）を例えば面ファスナー等で開閉し得るようにしたものを採用できる（本願請求項2に相当する）。

【0014】

本願発明のミトン手袋は、寒い日に使い捨てカイロを入れて使用するには、開閉手段を開操作して開口部を開放し、その開口部から使い捨てカイロを外袋と内袋間のカイロ収容部に収容した後、開閉手段を閉操作して開口部を閉塞する。尚、使い捨てカイロは、その粘着剤塗布部を内袋に貼着することで、定位置に固定できる。

10

20

30

40

50

【0015】

そして、外袋と内袋間に使い捨てカイロを収容した状態では、該カイロの外側面に外袋生地（通気部）を介して空気が接触するので、該カイロの発熱組成物が発熱して手袋内部を暖房できる。又、このミトン手袋では、本体袋部が人差し指から小指までの4指をまとめて被覆するように連続している（指別れしていない）ので、使い捨てカイロを本体袋部の手のひら部分と4指対応部分に跨がって配置することができる。

【0016】

ミトン手袋から使い捨てカイロを取り出すには、開閉手段を開操作し、開口部から外袋と内袋間にある使い捨てカイロを取り出せばよい。尚、使い捨てカイロに発熱の余力が残っている場合には、ミトン手袋から取り出した後、その使い捨てカイロを通気性のない収納袋内に密封する（空気と遮断する）ことで、発熱組成物の未発熱部分の発熱を止めることができる（再使用できる）。

【発明の効果】

【0017】

本願発明のミトン手袋は、次のような効果がある。

【0018】

(1) 上記のように使い捨てカイロを外袋と内袋間のカイロ収容部に出し入れ自在に収容できるので、寒い日に使い捨てカイロで手袋内部を暖房できる。そのとき、ミトン手袋であれば、本体袋部における人差し指から小指までの4指が対応する部分にも使い捨てカイロを配置することができるので、特に冷たさを感じ易い指部分も使い捨てカイロの発熱で暖房できる。

【0019】

(2) 使い捨てカイロを外袋と内袋の間に収容できるので、該使い捨てカイロが直接手に接触することがなく、カイロ入りの手袋であっても装着感が悪くならない。

【0020】

(3) 使い捨てカイロを外袋と内袋の間に収容できるので、使い捨てカイロの収容状態が安定する。

【0021】

(4) 開閉手段により開口部を開閉することで、使い捨てカイロを外袋と内袋間に出し入れできるので、該使い捨てカイロの出し入れ操作が簡単に行える。

【実施例】

【0022】

図1～図3には本願第1実施例のミトン手袋1が示され、図4～図5には本願第2実施例のミトン手袋1が示されている。

【0023】

図1～図3の第1実施例

この第1実施例のミトン手袋1は、外袋2と内袋3からなる二重袋を有している。又、このミトン手袋1では、手のひら部分と人差し指から小指までの4指部分をまとめて被覆し得る本体袋部11と、親指のみを被覆する親指袋部12とを有している。親指袋部12は、本体袋部11の生地と一体に連続する状態で形成したものでもよく、あるいは本体袋部11とは別体の生地で形成したものを本体袋部11に縫着させたものでもよい。尚、符号13は、このミトン手袋1の手挿入口、14は手挿入口13付近を引き締めるための引き締めゴムである。

【0024】

内袋3には、肌触りのよい生地（例えば布生地）が使用されている。他方、外袋2には、一般に耐久性のある生地が使用されるが、外袋2として通気性に乏しい生地（例えば天然皮革、合成皮革、その他の通気性の悪い生地）を用いた場合には、後述するように使い捨てカイロ5に対応する位置に通気用の多数の小孔23、23・・・（図1参照）を形成しておく。

【0025】

このミトン手袋 1 には、外袋 2 と内袋 3 との間に扁平状の使い捨てカイロ 5 を収容し得るカイロ収容部を設けている。又、外袋 2 には、使い捨てカイロ 5 をカイロ収容部内に出し入れするための開口部 2 4 と、該開口部 2 4 を開閉する開閉手段 4 とを設けている。

【0026】

本願の各実施例で使用される使い捨てカイロ 5 は、扁平状袋内に空気と接触して発熱する発熱組成物を収容したものである。この使い捨てカイロ 5 の大きさ（サイズ）は、特に限定するものではないが 135×100mm 乃至 95×70mm 程度のものが適当である。この使い捨てカイロ 5 には、片面に針孔等の通気部を有し（針孔にかえて生地の不織布を使用したものもある）、他面に剥離紙付きの粘着剤が塗布されている。又、この使い捨てカイロ 5 には、その長径方向を上下 3 段に分包したもの（例えばミシン目 5 1, 5 2 で区画したもの）を使用している。この各ミシン目 5 1, 5 2 部分は、図 2 に示すように厚さが薄くなっていて容易に折り曲げ得るようになっている。そして、後述するように、この使い捨てカイロ 5 を手袋甲部に装着したときに、先側のミシン目 5 1 部分が 4 指（人差し指から小指までの 4 指）の第 2 関節部分に位置し、もう 1 つのミシン目 5 2 部分が 4 指の付け根の関節部分に位置するようになっており、このミトン手袋 1 を手に装着して 4 指を曲げたときに、使い捨てカイロ 5 がさほど抵抗にならないようにしている。従って、この実施例のように、使い捨てカイロ 5 として上下 3 段に分包したものを使用すると、使い捨てカイロ入りの手袋であっても 4 指が曲げ易くなる。尚、この実施例では、使い捨てカイロ 5 として、上記のように上下 3 段に分包したものを使用しているが、他の実施例では分包していない単一包装の使い捨てカイロを使用することもできる。その場合、4 指が若干曲げにくくなるものの、暖房効果には変わりがない。

【0027】

使い捨てカイロ 5 は、使用前には通気性のない収納袋内に収納されており（発熱しない）、一旦使用した後でも、図 2 に鎖線図示するように使い捨てカイロ 5 ' を通気性のない密封袋 6 内に収納することで、以降の発熱を中断させることができるようになっている。尚、図 2 に鎖線図示する密封袋 6 は、カイロ 5 の使用前に収納されている収納袋とは別のもので、該密封袋 6 の開口部には密封用の嵌合ファスナー 7 が設けられていて、使用を中断した使い捨てカイロを密封袋 6 内に収納した後、該嵌合ファスナー 7 を閉じることで、該使い捨てカイロ 5 ' の発熱を停止させることができる。

【0028】

この第 1 実施例のミトン手袋 1 では、カイロ出し入れ用の開口部 2 4 として、本体袋部 1 1 の甲側材 2 1 と平側材 2 2 との小指側境界部における図 1 の符号 L の範囲に切り目を入れて形成している。この開口部 2 4 の範囲（符号 L の範囲）は、本体袋部 1 1 における小指側の基部寄り位置（符号 A の位置）から先端部を若干越える位置（符号 B の位置）までのかなり長い範囲である。

【0029】

又、この第 1 実施例のミトン手袋 1 では、図 1 において内袋 3 の外周における上記符号 L の範囲（開口部 2 4 の範囲）を除く符号 M 及び符号 N の各範囲がそれぞれ外袋 2 に縫合されている。従って、内袋 3 の外周は、上記開口部 2 4 の範囲（符号 L の範囲）で外袋 2 に固定されていないものの、符号 M 及び符号 N の各範囲で外袋 2 に固定されているので、内袋 3 が外袋 2 に対して位置ずれしたり変形したりすることがない。

【0030】

この第 1 実施例のミトン手袋 1 では、開口部 2 4 を開閉する開閉手段 4 としてジッパー 4 1 が採用されている。このジッパー 4 1 は、図 1 において、ツマミ 4 2 が実線図示位置（開口部 2 4 の下端側端部 A）にあるときに閉状態であり、該ツマミを符号 2 4 ' で示す鎖線図示位置（開口部 2 4 の上端側端部 B）まで移動させると開口部 2 4 を全開させることができるようになっている。ジッパー 4 1 を全開位置 B まで開操作した状態では、図 3 に示すように外袋甲側材 2 1 における開口部 2 4 が対応する部分（符号 2 1 a の部分）を外側に捲ることができる。尚、図 2 における符号 2 1 a ' で示す鎖線図示部分は、図 3 における外袋甲側材 2 1 の一部 2 1 a を外側に捲った状態を示すものである。又、この第 1

実施例のミトン手袋 1 では、外袋 2 の平側材 2 2 における開口部 2 4 に対応する部分（符号 2 2 a 部分）も、図 2 に鎖線図示（符号 2 2 a'）するように外側に捲ることができるようになっており、必要に応じて使い捨てカイロ 5 をミトン手袋 1 の平側にも装着することができる。

【0031】

この第 1 実施例のミトン手袋 1 は、次のようにして使用される。尚、使い捨てカイロ 5 は、販売時には通気性のない包装袋内に密封収納した状態で保管されており、この保管状態ではカイロの発熱組成物が空気（外気）と接触しないので、発熱が起こらない。そして、使い捨てカイロ 5 が必要なときに、該カイロ 5 を包装袋から取り出せば、該カイロの発熱組成物に空気（外気）が接触して発熱が始まる。尚、この使い捨てカイロ 5 は、空気が接触し続けると 10 時間程度発熱が継続するが、途中で空気を遮断する（別に用意した図 2 の密封袋 6 内に再収納する）と発熱が中断する性質がある。

10

【0032】

このミトン手袋 1 に使い捨てカイロ 5 を収容させるには、図 3 の状態（外袋甲側材 2 1 の開口部対応部分 2 1 a を捲った状態）で、外袋甲側材 2 1 と内袋甲側材 3 1 との間の所定位置に使い捨てカイロ 5 を差し入れて、該カイロ 5 の粘着剤塗布面を内袋甲側材 3 1 の外面（図 3 では上面）に貼着させればよい。このとき、ミトン手袋 1 では本体袋部 1 1 が人差し指から小指までの 4 指をまとめて被覆するように連続している（指別れしていない）ので、使い捨てカイロ 5 を本体袋部 1 1 の手のひら部分と 4 指対応部分に跨がって配置することができる。そして、使い捨てカイロ 5 を外袋甲側材 2 1 と内袋甲側材 3 1 間の所定位置に収容した後、ジッパー 4 1 のツマミ 4 2 を閉位置 A まで移動させることで開口部 2 4 を閉塞でき、図 1 及び図 2 に示すカイロ装着状態となる。

20

【0033】

このカイロ装着状態では、使い捨てカイロ 5 に外袋甲側材 2 1 の小孔 2 3, 2 3・・を介して空気が接触しているので、該使い捨てカイロ 5 が発熱を継続しており、その熱で手袋内部を暖房するようになる。そのとき、使い捨てカイロ 5 が 4 指（人差し指から小指まで）に対応する位置にも跨がっているので、通常暖まりにくい指部分も暖房できるようになる。

【0034】

又、ミトン手袋 1 から使い捨てカイロ 5 を取り出すには、ジッパー 4 1 を開操作し、開口部 2 4 から内部の使い捨てカイロ 5 を取り出せばよい。そのとき、使い捨てカイロ 5 に発熱の余力が残っている場合には、ミトン手袋から取り出した後、図 2 に鎖線図示するようにそのカイロ 5' を通気性のない密封袋 6 内に密封しておく、と、発熱組成物の未発熱部分の発熱を止めることができる。従って、この使い捨てカイロ 5 を再使用できる。又、ミトン手袋 1 を脱いだ（手から外した）状態で、使い捨てカイロ 5 入りのミトン手袋 1 をそのまま密封袋内に空気を抜いた状態で収容した場合も、使い捨てカイロ 5 の発熱組成物の発熱を緩和させることができる。

30

【0035】

図 4～図 5 の第 2 実施例

この第 2 実施例のミトン手袋 1 では、使い捨てカイロ 5 を出し入れするための開口部として外袋 2 の甲側材 2 1 に大面積の切欠窓 2 5 を形成する一方、該切欠窓（開口部）2 5 を開閉するための蓋片 4 5 を設けているとともに、蓋片 4 5 を開閉手段 4 となる面ファスナー 4 6, 4 7, 4 7 で外袋甲側材 2 1 に対して接離自在に接着させ得るように構成している。尚、この第 2 実施例では、蓋片 4 5 は外袋 2 の甲側材 2 1 の一部を構成するものである。

40

【0036】

外袋甲側材 2 1 に設けた切欠窓（開口部）2 5 は、使い捨てカイロ 5 の外形よりやや大きい開口面積（幅 W×高さ H）を有している。

【0037】

蓋片 4 5 は、切欠窓 2 5 よりやや大きい面積を有している。又、この蓋片 4 5 には、そ

50

の大面积部分に通気用の多数の小孔 2 3, 2 3 ・ ・ が形成されている。そして、この蓋片 4 5 は、その基端部側の一边を外袋甲側材 2 1 における切欠窓 2 5 の下縁部（手挿入口 1 3 側の縁部）にミシン縫い（ミシン目 4 8）して取付けている。蓋片 4 5 の外周部分は、外袋甲側材 2 1 における切欠窓 2 5 の周囲に面ファスナー（先部面ファスナー 4 6 と左右の各側部面ファスナー 4 7, 4 7）で接離自在に接着させている。

【0038】

尚、この第 2 実施例のミトン手袋 1 のその他の構成は、上記第 1 実施例のものと同様であるので、該第 1 実施例の説明を援用する。

【0039】

この第 2 実施例のミトン手袋 1 では、蓋片 4 5 は各面ファスナー 4 6, 4 7, 4 7 を剥離させると図 5 に鎖線図示（符号 4 5'）するように開くことができ、切欠窓（開口部）2 5 を開放させることができる。そして、その開放された切欠窓 2 5 から内袋甲側材 3 1 の外面に使い捨てカイロ 5 を貼着させ、続いて切欠窓 2 5 を蓋片 4 5 で閉塞する（各面ファスナー 4 6, 4 7, 4 7 を接着させる）ことで、使い捨てカイロ 5 を手袋甲側における外袋 2（蓋片 4 5）と内袋 3 との間に収容できる。この使い捨てカイロ 5 の収容状態では、上記第 1 実施例の場合と同様に、該使い捨てカイロ 5 で手袋内部を暖房できる。

【0040】

又、手袋内部の使い捨てカイロ 5 を取り出すには、蓋片 4 5 を開くと（図 5 の鎖線図示状態）、使い捨てカイロ 5 が切欠窓 2 5 から露出し、その状態で該カイロ 5 を内袋甲側材 3 1 から剥離させればよい。

【0041】

このように、第 2 実施例のミトン手袋 1 でも、上記第 1 実施例のミトン手袋と同様の機能を有し、使い勝手の良いミトン手袋となる。

【図面の簡単な説明】

【0042】

【図 1】本願第 1 実施例のミトン手袋における使い捨てカイロを収容した状態での平面図である。

【図 2】図 1 の II-II 断面図である。

【図 3】図 1 のミトン手袋における開口部開放状態の斜視図である。

【図 4】本願第 2 実施例のミトン手袋における使い捨てカイロを収容した状態での平面図である。

【図 5】図 4 の V-V 断面図である。

【符号の説明】

【0043】

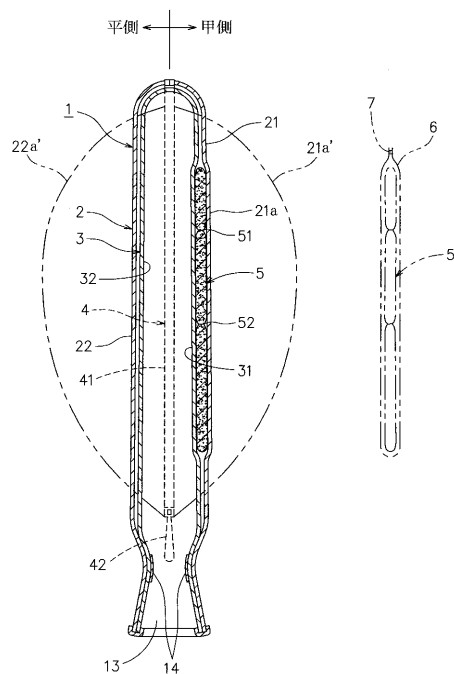
1 はミトン手袋、2 は外袋、3 は内袋、4 は開閉手段、5 は使い捨てカイロ、1 1 は本体袋部、1 2 は親指袋部、2 1 は外袋の甲側材、2 2 は外袋の平側材、2 3 は小孔、2 4 は開口部（切り目）、2 5 は開口部（切欠窓）、3 1 は内袋の甲側材、3 2 は内袋の平側材、4 1 はジッパー、4 5 は蓋片、4 6, 4 7 は面ファスナーである。

10

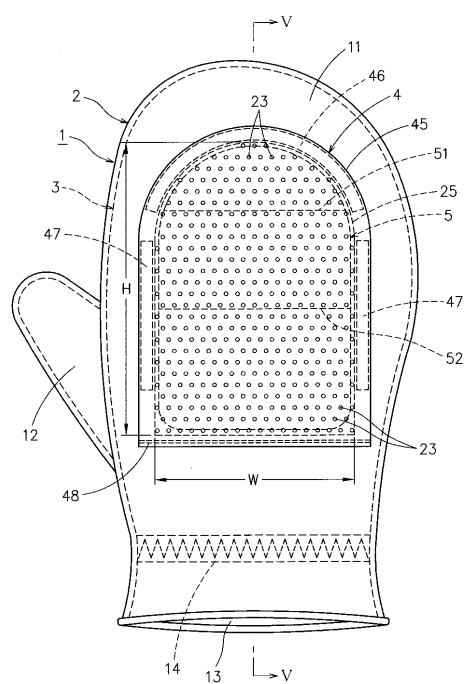
20

30

【图 2】



【 図 4 】



【図 5】

